

経済成長は「幸福」に非ず

インド共産党毛派のゲリラ戦士と民衆の関係を、生活を共有しながら克明にえがきます

酒井隆史



▼アラン・ダティ・ロイ著、栗飯原文子訳『ゲリラと森を行く』31刊 四六判 二四〇頁・本体二八〇〇円・以文社

A・ロイ著「ゲリラと森を行く」(以文社)を読む

BRICSの一角をなしている情報産業をはじめ、著しい経済成長のことがれるインドであるが、本書を読むならば、経済成長というタームを、現代において、わずかなことも「幸福」という価値のニュアンスをもって理解することは、能天気な態度になるはずだ。インド共産党の分派である毛派の勢力の強さは、日本でも多少なりとも耳にすることはあるだろう。それが近年、

情報産業を牽引力に高度成長を誇るBRICSのインドの裏面です。農村の破壊と膨大な数の農民の自殺が示すその生活の破壊を指摘していることとくらは認識されている。しかし、評者自身がそうであったように、その実態はまったくといていはいは知られていないようにも思う。たとえ、メキシコのサパティスタ主義の古く然るを物きもあるだろう。

本書で、作家アラン・ダティ・ロイは、日々、メディア産業によって悪魔化されつつあり、おそろしく強圧にさらされているインド共産党毛派のゲリラ戦士とそれらの泳ぐ「海」である民衆の表情やその関係を、みずから森の奥深くに歩みを進め、生活を共有しながら克明にえがきた。非合法化されたその組織が、なぜ幾たびもくり返される、拷問、強姦、殺戮を大量にともなう苛烈な強圧にもかかわらず、強大な勢力を握るのか、なぜ指導者や革命戦士が次々と殺害されても、つづくものが跡をたないのか、その理由が、森の奥深くに広がる世界のから強力で説得力をもつ説明される。そして、この森の奥からインド社会、そしてそれを突き動かすグローバル資本主義の世界が、逆照射されるのである。数々の困難を乗り越えながら、農作業や祭りについて、ゲリラたちと民衆の織りなす生活世界がえがきたされる箇所などは感動的である。

「海」である民衆の表情やその関係を、みずから森の奥深くに歩みを進め、生活を共有しながら克明にえがきた。非合法化されたその組織が、なぜ幾たびもくり返される、拷問、強姦、殺戮を大量にともなう苛烈な強圧にもかかわらず、強大な勢力を握るのか、なぜ指導者や革命戦士が次々と殺害されても、つづくものが跡をたないのか、その理由が、森の奥深くに広がる世界のから強力で説得力をもつ説明される。そして、この森の奥からインド社会、そしてそれを突き動かすグローバル資本主義の世界が、逆照射されるのである。数々の困難を乗り越えながら、農作業や祭りについて、ゲリラたちと民衆の織りなす生活世界がえがきたされる箇所などは感動的である。

この本からは、グローバルな階梯の一場面と、高度のメディア環境と、さまざまなシッピングモード、その裏側には、テモクラシーの空洞化、苛烈な警察と軍事的暴力、それらに手をとったおそろしく、シラシス的な排外主義、民衆の既得の諸権利の抑圧の蔓延する苛烈な状況に、さまざまな条件の違いはあれども、日本社会はじりじりと接近している。この本は、われわれ自身の未来図としても読まねばならない。(大阪府立大学人間社会学部准教授)

本書で、作家アラン・ダティ・ロイは、日々、メディア産業によって悪魔化されつつあり、おそろしく強圧にさらされているインド共産党毛派のゲリラ戦士とそれらの泳ぐ「海」である民衆の表情やその関係を、みずから森の奥深くに歩みを進め、生活を共有しながら克明にえがきた。非合法化されたその組織が、なぜ幾たびもくり返される、拷問、強姦、殺戮を大量にともなう苛烈な強圧にもかかわらず、強大な勢力を握るのか、なぜ指導者や革命戦士が次々と殺害されても、つづくものが跡をたないのか、その理由が、森の奥深くに広がる世界のから強力で説得力をもつ説明される。そして、この森の奥からインド社会、そしてそれを突き動かすグローバル資本主義の世界が、逆照射されるのである。数々の困難を乗り越えながら、農作業や祭りについて、ゲリラたちと民衆の織りなす生活世界がえがきたされる箇所などは感動的である。

本書で、作家アラン・ダティ・ロイは、日々、メディア産業によって悪魔化されつつあり、おそろしく強圧にさらされているインド共産党毛派のゲリラ戦士とそれらの泳ぐ「海」である民衆の表情やその関係を、みずから森の奥深くに歩みを進め、生活を共有しながら克明にえがきた。非合法化されたその組織が、なぜ幾たびもくり返される、拷問、強姦、殺戮を大量にともなう苛烈な強圧にもかかわらず、強大な勢力を握るのか、なぜ指導者や革命戦士が次々と殺害されても、つづくものが跡をたないのか、その理由が、森の奥深くに広がる世界のから強力で説得力をもつ説明される。そして、この森の奥からインド社会、そしてそれを突き動かすグローバル資本主義の世界が、逆照射されるのである。数々の困難を乗り越えながら、農作業や祭りについて、ゲリラたちと民衆の織りなす生活世界がえがきたされる箇所などは感動的である。

この本からは、グローバルな階梯の一場面と、高度のメディア環境と、さまざまなシッピングモード、その裏側には、テモクラシーの空洞化、苛烈な警察と軍事的暴力、それらに手をとったおそろしく、シラシス的な排外主義、民衆の既得の諸権利の抑圧の蔓延する苛烈な状況に、さまざまな条件の違いはあれども、日本社会はじりじりと接近している。この本は、われわれ自身の未来図としても読まねばならない。(大阪府立大学人間社会学部准教授)

この本からは、グローバルな階梯の一場面と、高度のメディア環境と、さまざまなシッピングモード、その裏側には、テモクラシーの空洞化、苛烈な警察と軍事的暴力、それらに手をとったおそろしく、シラシス的な排外主義、民衆の既得の諸権利の抑圧の蔓延する苛烈な状況に、さまざまな条件の違いはあれども、日本社会はじりじりと接近している。この本は、われわれ自身の未来図としても読まねばならない。(大阪府立大学人間社会学部准教授)

「図書新聞」

2013. 7/27 (土)